

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険4

国立市立国立第七小学校

平成28年5月13日 NO.13 (313)



ミズムシ (風船虫)

花ちゃん 「あれあれ？何か動いていますね。」

オー君 「何という虫かな？」

モンタ博士「この虫の名前は、ミズムシというんだよ。またの名前を風船虫ともいうんだ。」

オー君 「え！ミズムシ？みずむしって、足がかゆくなったりするやつですか。」

モンタ博士「それがちがうんだ。ミズムシという虫がいるんだよ。水生カメムシの仲間
ミズムシ科のミズムシさ。」

花ちゃん 「へえー。かわった名前もあるんですね。」

モンタ博士「かわっているのは名前だけじゃないんだ。おもしろい動きをするから、じっ
くりと見ていてごらん。」

オー君 「あ！ミズムシが上に行ったり、下に行ったりしているよ。」

花ちゃん 「紙きれみたいなものも、上に行ったり、下に行ったりしているわ。」

オー君 「紙きれをつかんだミズムシが上に行ってから、紙きれをはなすと紙が下に
落ちるんだ。」

花ちゃん 「そして、また、ミズムシが^{した}下で^{かみ}紙きれをつかむと、^{うえ}上に^あ上がってくわ。」

オー君 「こりゃおもしろい。どうしてこんな^{うご}動きをするんですか。」

フッタ博士「ミズムシは、^{からだ}体がとても^{かる}軽くて^{しぜん}自然のままでは^{すいめん}水面にうきあがる。そこで、
^{みつう}ふつうは^{みすくさ}水草や^{こいし}小石につかまっているけど、^{かみ}紙きれなどを^い入れるとつかんだ
まま、うきあがるというわけさ。」

花ちゃん 「へえー。おもしろい^{むし}虫もいるもんですね。」

フッタ博士「それで、^{ふうせん}風船が^あ上がったり^さ下がったりする^{ようす}様子によく^に似ているので、^{ふうせんむし}風船虫
ともいうわけなんだ。」

オー君 「フッタ博士！どこにいたんですか。」

フッタ博士「よく^きぞ聞いてくれました。^{がっこう}学校のプールにいたのさ。このミズムシを^み見つけたのは、わたし！フッタ博士であります。えらいだろう。すごいだろう。」

モンタ博士「さすがフッタ博士ですね。モンタ博士も^{やま}山の^{ちか}近くの^{がっこう}学校にいる^{とき}時に^み見つけたことがあるけど、^{くにたちし}国立市にもいるというのはとってもうれしいね。」

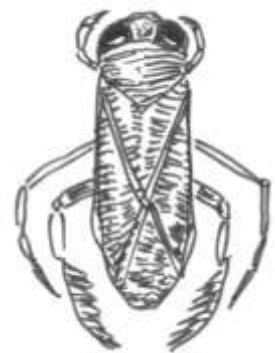
フッタ博士「^{たまがわ}多摩川のような^{かわ}川や、^{ふちゅうようすい}府中用水や^{した}ハケ下の^{みすべ}水辺や^{いけ}池など、^{みんな}みんなのおうちの^{ちか}近くに^いいるかもしれないよ。^{さが}探してみるのも^{たの}楽しいね。」

モンタ博士「どうしても^み見つけられなくて、^{おも}ほしいと思う^{ひと}人には^ああげるよ。その^{とき}時は、^{がっこう}学校に^{ペット}ペットボトルを^ももって^{おい}おいで。でも^{かず}数に^{かぎ}限りがある^{はや}ので^は早めにね。それから、^{ふうせんむし}風船虫の^{うご}動きがよくわかるように、^{どうが}動画にとったから、^みそれも見るといいね。」→**動画は「風船虫」で検索か、下記のアドレス参照。**

https://youtu.be/Uc7ZBFq_aeE <https://youtu.be/uGtWRzOe6WQ> <https://youtu.be/VTSWGga-5-3k>

へんな虫はすごい虫！

ミズムシは節足動物のカメムシ目。ミズムシ科の水生昆虫である。ほとんどの水生カメムシは鎌状の前足をもっており、鋭い口の捕食者であるが、このミズムシ類は、藻類などを食べる比較的小おとなしい虫である。大きさは1 cmもなく小型であり、前足はごく短くスプーンのようなものである。中足は長く先がカギ状になっていて、体を固定するのに役立っている。後足は長くてオールのようになっていて、泳ぐのに適している。穏やかな水辺に生息し、浅い河川の底にいるのを見ることができよう。成虫では背面にたたんだ翅の下に空気を保持して呼吸しているために軽く、何かに体を固定しないと浮き上がってしまうのである。上記はその原理を応用した遊びだ。



お知らせ…『コスモスの種で花いっぱいの街づくり作戦』で谷保駅に置いたコスモスは、わずか1日で約200袋全てもらっていただきました。